



丹波市立農の学校 検証委員会 第1回 資料

令和8年2月4日(水)



1. 丹波市立農の学校検証委員会の目的



農の学校の設置目的

- 農の学校は、新規就農者が栽培技術や経営、農村文化を実践的に学び、将来の丹波市を支える農業・農村の担い手へと成長できる研修施設として開設された。
- 学校での学びを通じて、変化する農業情勢に柔軟に対応し、地域と協調しながら将来の丹波市を支える「農」の担い手となる人材育成を目指している。

検証委員会の目的

- 農の学校は開設から7年を迎え、修了生の約6割が市内就農しており、開設目的である新たな担い手の確保に一定の成果を収めている一方で、農業を取り巻く環境は、開設当時と比べ変化している。
- 「農の学校入学者数を確保」し、「持続可能な農業・農村の担い手の育成・増加」を目指すために、これまでの取組成果や学校運営を検証し、次期指定管理(令和11年～)に向け、より効果的な学校運営の方向性を整理・検討する。

2. 検証委員会開催スケジュール

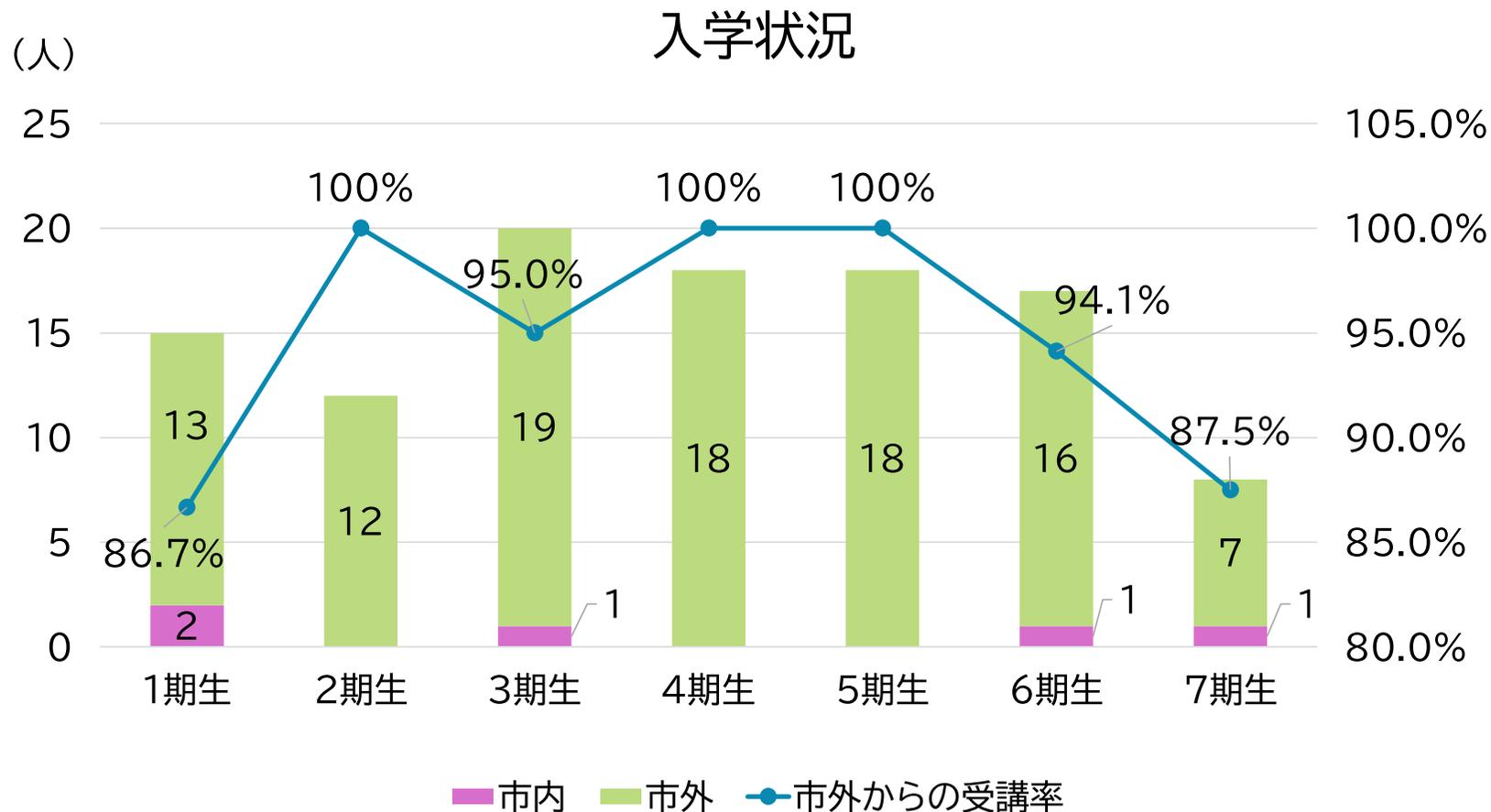
回	時期	主な検討内容(予定)
第1回	2月4日(水)	検証の目的、スケジュール等の説明 調査内容の検討・決定
第2回	4月中下旬	調査分析結果の検証 課題・今後の方向性・スキームの整理
第3回	5月中下旬	今後の方向性・スキームの決定
第4回	6月中旬	報告書の検討

3. 丹波市立農の学校の概要

開校	2019(令和元)年4月(現在は7期目)
定員	20名(現在の受講生6名)
研修ほ場	約2.1ha(16筆)+パイプハウス3棟
受講期間	1年間(4月入学)
総受講期間 (2025年度実績)	1,618時間/週5日程度/全日制
受講料	670,000円(学校指定教科書代金含む)



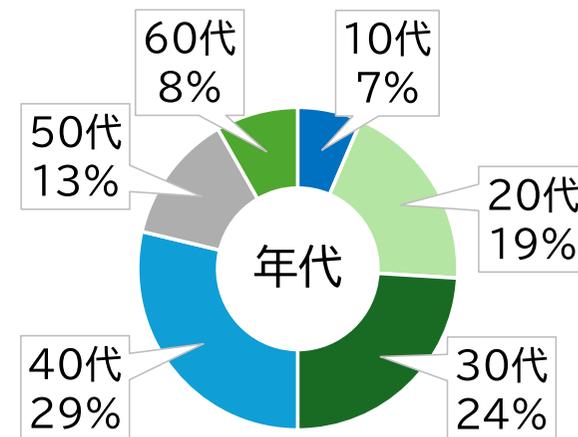
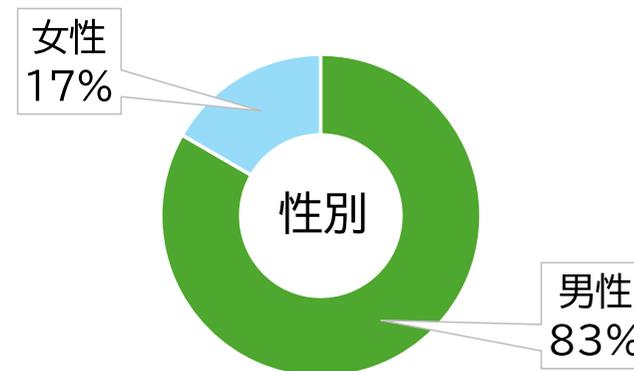
3. 丹波市立農の学校の概要(入学状況)



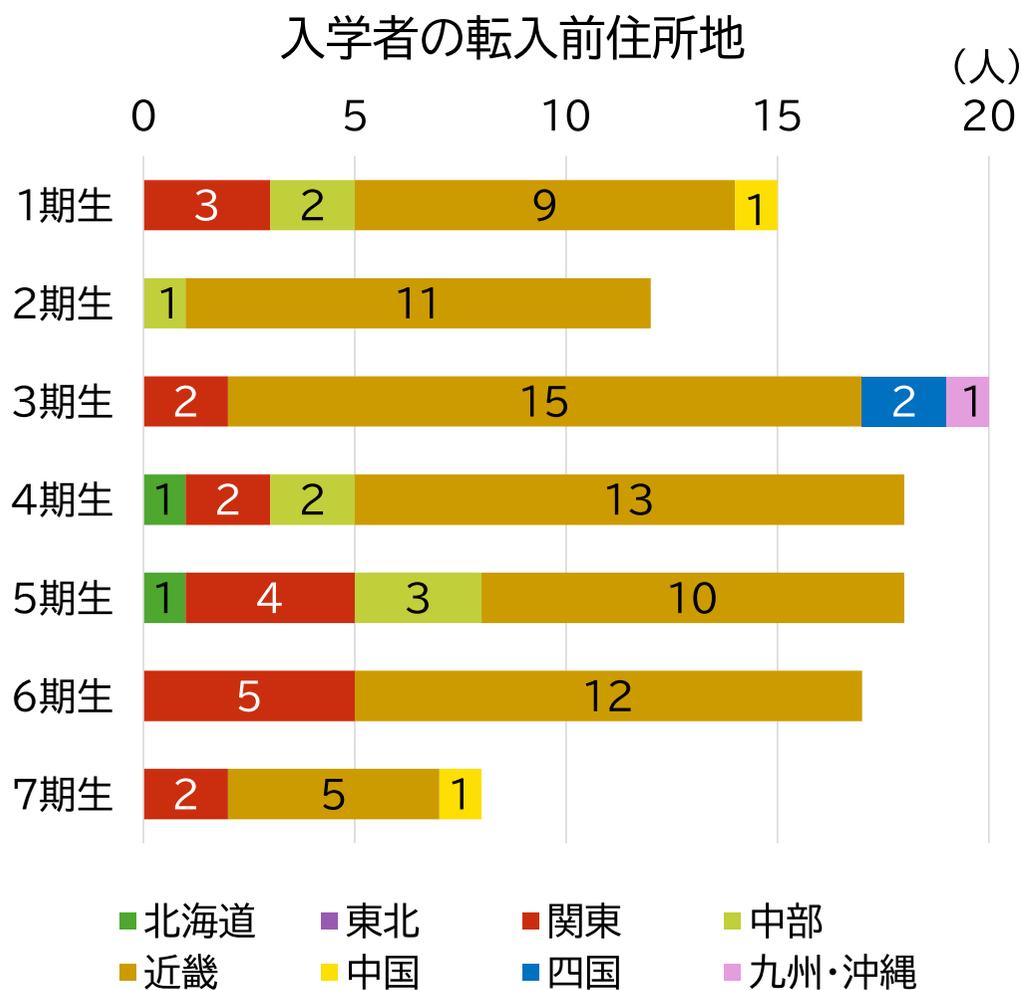
3. 丹波市立農の学校の概要(入学状況)

	入学者数	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代
1期生	15	14	1	0	3	4	4	2	2
2期生	12	9	3	1	3	4	2	1	1
3期生	20	16	4	0	2	6	8	2	2
4期生	18	14	4	0	3	5	7	3	0
5期生	18	16	2	4	3	4	2	3	2
6期生	17	14	3	1	5	3	4	3	1
7期生	8	7	1	1	2	0	4	0	1
合計	108	90	18	7	21	26	31	14	9

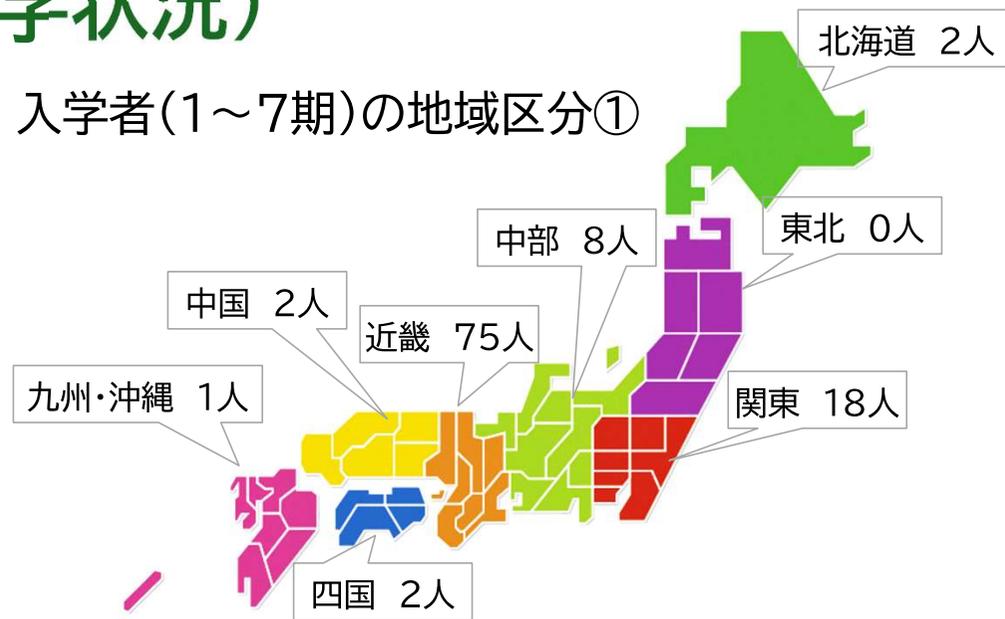
(人)



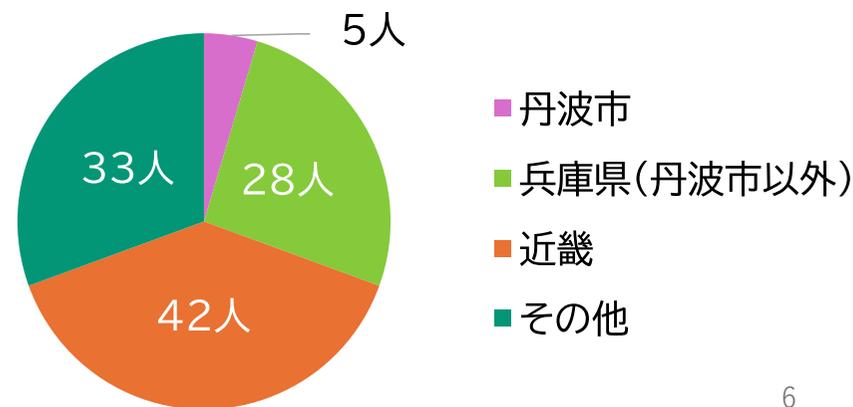
3. 丹波市立農の学校の概要(入学状況)



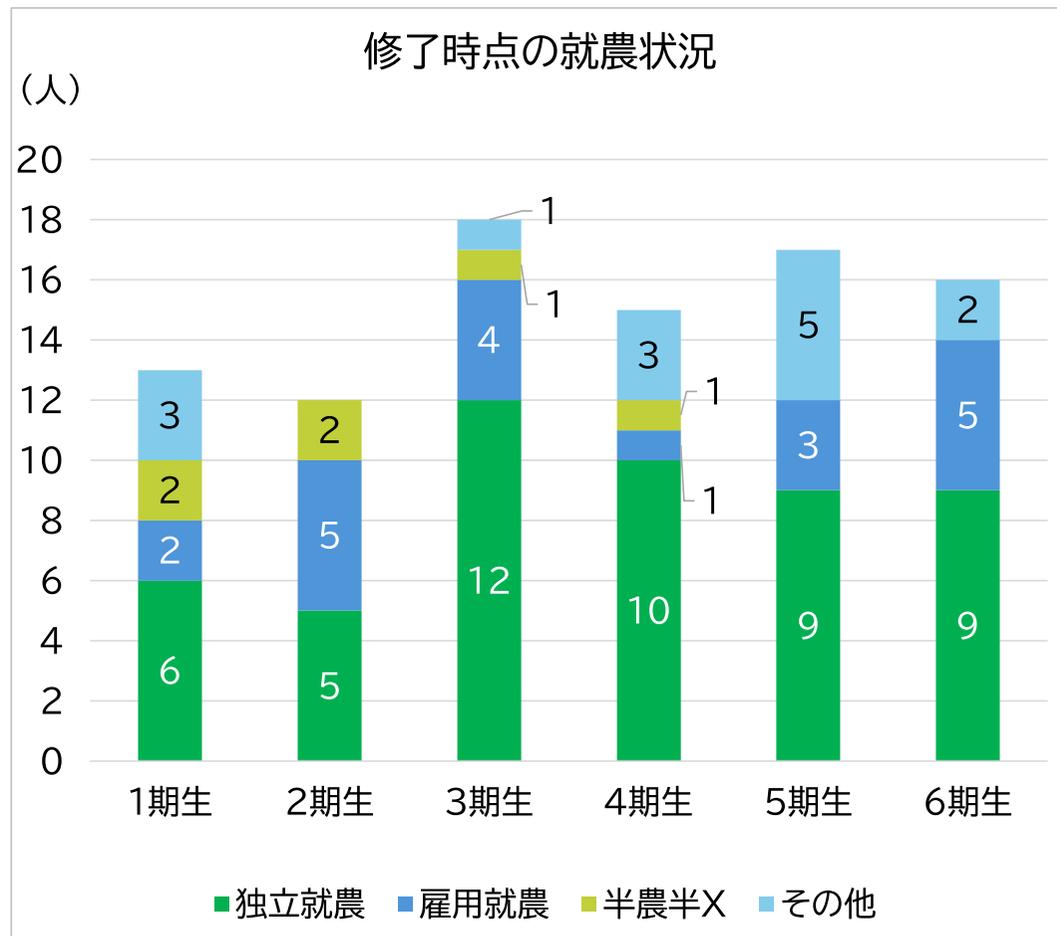
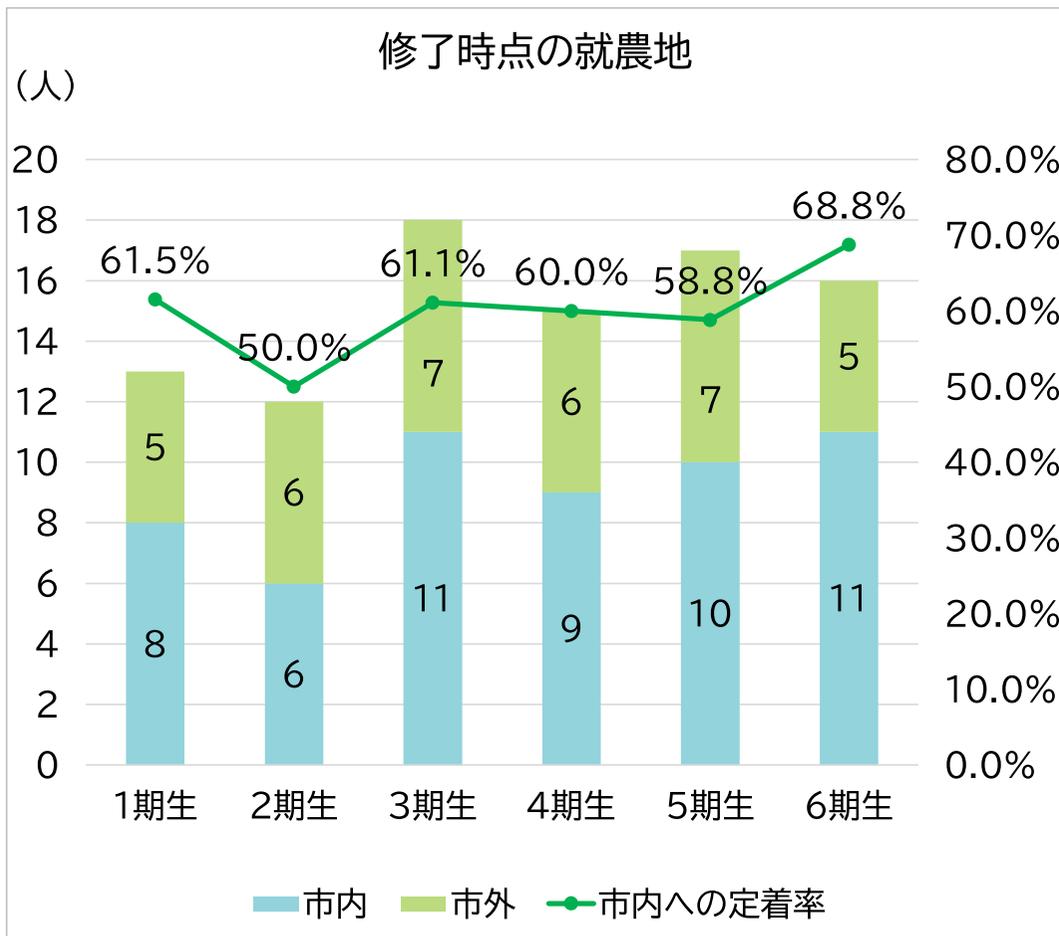
入学者(1~7期)の地域区分①



入学者(1~7期)の地域区分②

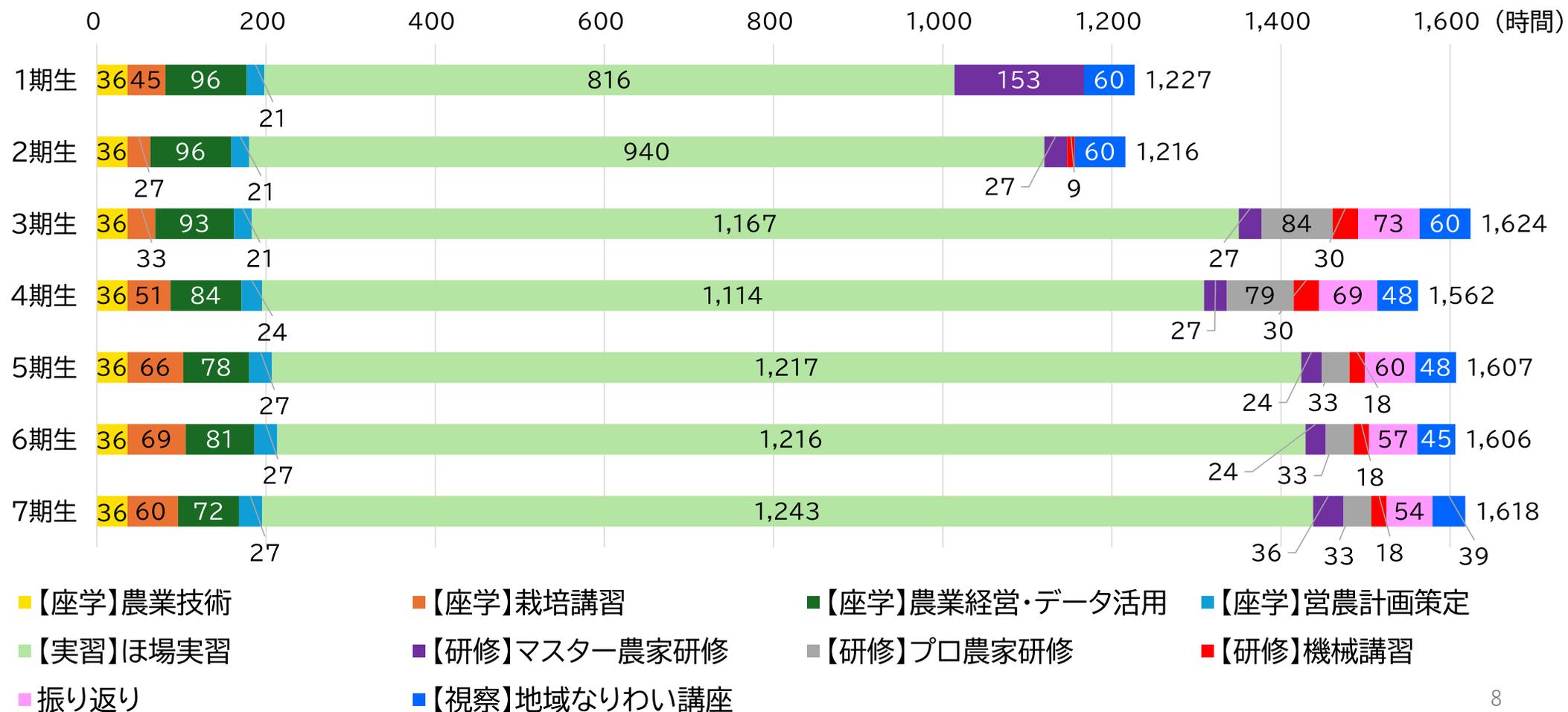


3. 丹波市立農の学校の概要(就農状況)



3. 丹波市立農の学校の概要(カリキュラム)

カリキュラム別受講時間数の推移



3. 丹波市立農の学校の概要(カリキュラム)

- 課外プログラム

日本農業技術検定受験(2・3級)

農業簿記検定受験(3級)

有機JAS講習会(資格講習)

地域プロ農家での短期研修

イベント参加、マルシェでの販売実践等



4. 検証までの流れ

目的

- ・検証委員会は、「農の学校入学者数を確保」し、「持続可能な農業・農村の担い手の育成・増加」を目指すために、より効果的な学校運営の方向性を整理検討する。



調査

- ・調査対象を5つ(新規就農希望者、受講生、修了生、類似施設、地域関係者)に分類し、**調査内容を検討し、決定する。**
- ・運営方針を検証するために必要となる文献調査、アンケート調査及びヒアリング調査に加え、既存データも活用して情報を収集・整理する。



分析

- ・満足度など段階評価の質問は結果を数値化する。
- ・自由記述は回答を分類し、どのような項目(テーマ)に関する声が多いか分類する。
- ・調査結果から読み取れるニーズと現状との乖離によって課題を抽出する。



検証

- ・課題をカテゴライズするとともに、ニーズと現状のギャップを明確化し、優先順位付けしたものを整理する。
- ・上述を受け、独自の魅力を打ち出せる今後の学校運営の方向性を検討する。



4. 検証までの流れ(調査方針)

第2回検証委員会では、農の学校の効果を明らかにするために必要な項目について分析結果を提示する。

そのため、以下の方針に基づいて調査を行うこととする。



- 新規就農希望者は接触機会が限定的であるため、農林水産省等が公表している文献の調査と、新規就農相談窓口へのヒアリング調査を基本とする。
- 受講生は全員に対してアンケート調査及びヒアリング調査を行う。
- 修了生の課題や困りごとは日々変化しているため、令和6年7月のアンケート結果に加え、改めて全員に対してアンケート調査の実施と、市内就農者へのヒアリング調査を実施する。
- 有機農業を扱っている類似する5施設を対象に、文献調査を実施し、必要に応じてヒアリング調査を行う
- 地域関係者には、アンケート調査を実施する

4. 検証までの流れ(調査対象及び調査方法)

	調査対象	調査方法
新規就農窓口 (新規就農 希望者)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひょうご就農支援センター(神戸市元町) ・丹波農業改良普及センター (丹波地域就農支援センター)(丹波市) ・全国新規就農センター(東京) ・丹波ひかみ農業協同組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査 ・ヒアリング
受講生	6名	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート(全員) ・ヒアリング(全員)
修了生	91名(市内55名)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート(全員) ・ヒアリング(市内就農者5名程度)
類似施設	<ul style="list-style-type: none"> ・SEADS(鶴岡市立農業経営者育成学校)(山形県鶴岡市) ・亀岡オーガニック農業スクール(京都府亀岡市) ・綾オーガニックスクール(宮崎県綾町) ・兵庫楽農生活センター(神戸市) ・兵庫県立農業大学校有機農業アカデミー(加西市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査 ・ヒアリング
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・農会 ・関連する農業法人 ・農業者(個人経営) ・丹波ひかみ農業協同組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート

4. 検証までの流れ(調査マトリクス)

調査対象	入学まで	学校について	就農について	就農後・その他
新規就農希望者	<ul style="list-style-type: none"> ・就農理由 ・技術、知識 ・研修施設の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得 ・ニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・作付品目 ・営農計画 ・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年後の経営 ・支援
受講生	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得 ・経営計画の支援 ・就農の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・作付品目 ・営農計画 ・支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年後の経営 ・支援
修了生	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得 ・経営計画の支援 ・就農の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・作付品目 ・営農状況 ・支援 ・課題、不足等 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年後の経営 ・就農後の支援 ・課題、不足等 ・地域との関わり
類似施設	<ul style="list-style-type: none"> ・学校制度 ・広報の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術習得 ・経営計画の支援 ・就農の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・作付品目 ・営農支援 ・その他支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援 ・週末学校
地域関係者		<ul style="list-style-type: none"> ・地域への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への影響 ・地域交流 ・地域の課題 	

4. 検証までの流れ(既存データ)

対象	データ	概要
新規就農希望者	公表資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「新規就農者調査結果(農林水産省)」 ・「新規就農者の就農実態に関する調査結果」 (一般社団法人全国農業会議所全国新規就農相談センター) 等
受講生	アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年修了時に受講生へアンケートを実施 ・アンケート内容:学校生活全般、カリキュラム、進路に関するサポートの満足度など ※令和7年度受講生へは令和8年3月に実施予定
	面談結果記録	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生に対して年に数回個別面談を行い、面談内容を記録 ・面談内容:就農に関すること(就農地域、就農形態、面積、作物等)、学校に関すること(現状や要望等) ・面談時期:5、7、11、1月(4回) など
修了生	アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期～第5期の修了生に対して令和6年7月にアンケートを実施 ・アンケート内容:就農状況(面積、品目、販売先等)、課題、困っていることなど
農の学校	年間事業報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年修了後に指定管理事業者が作成 ・学校運営全般、事務局体制、ほ場・作付、カリキュラムについてそれぞれ自己評価を行った上で、課題、改善策等を記載

5. 新規就農窓口(分析を行い検証の基とするデータ一覧)

調査項目(分析を行い検証の基とするデータ一覧)	
入学まで	属性(性別・年齢構成・出身地) 就農理由 農業経験の有無 親元就農・未経験での新規就農等の割合 農業学校を選ぶ基準
学校について	学びたいこと(技術・知識) どの程度のスキル(技術)を保有しているのか 就農前に技術習得を目的として研修を受けるか(研修先、研修先を選んだ理由、研修先の情報収集、研修内容、期間)
就農について	どの程度の自己資金を保有しているのか ニーズは何か (地域の選択、農地の確保、作付品目の選択、販売先の確保、住宅の確保、資金の確保) 就農に関する情報はどこで得ているか (地域の選択、農地の確保、販売先の確保、住宅の確保、資金の確保)
就農後・その他	どのようなことを不安に思っているか 就農につながらなかった案件に関すること



6. 農の学校受講生(分析を行い検証の基とするデータ一覧)

調査項目(分析を行い検証の基とするデータ一覧)	
入学まで	農の学校に入学した理由
学校について	農の学校に関する印象(カリキュラム・研修・実習・事務局) 農の学校の良かったこと、改善すべき点(カリキュラム・研修・実習・事務局) 就農への準備について(自己資金・農地探し・作付品目の選択・フォローアップ)
就農について	就農への心情の変化(就農地、独立就農か) 就農に関する予定(経営面積・作付品目(開始～5年後)) 就農に際して不安に思うこと 農の学校と市のフォローアップ体制で良かったこと、改善すべき点
就農後・その他	就農に関する予定(経営面積・作付品目(開始～5年後)) 修了後にあれば役に立つと思うサポート・情報は何か



7. 農の学校修了生(分析を行い検証の基とするデータ一覧)

調査項目(分析を行い検証の基とするデータ一覧)	
入学まで	農の学校に入学した理由
学校について	農の学校のカリキュラムを変更すべき(足りなかった)ことがあるか(研修・実習等) 農の学校の運営で見直すことはあるか 農の学校と市のフォローアップ体制で良かったこと、改善すべき点
就農について	現在の就農地と就農して何年目か 現在の経営規模(作付品目含む)・経営状況・収支情報 就農時にどのような不安があったか 就農後の農の学校と市のフォローアップ体制で良かったこと、改善すべき点
就農後・その他	今後の営農計画について(経営面・規模等) 実際就農してみて不足していると感じること(課題、問題点)は何か →技術、知識、経営、その他に分けて課題・問題点を確認 現在抱える心配事はあるか 修了後の農の学校・市とのかかわりについて 地域とのかかわりについて



8. 類似施設(分析を行い検証の基とするデータ一覧)

調査項目(分析を行い検証の基とするデータ一覧)	
入学まで	基本情報 (設立、設置主体、定員、受講期間、コース設定、学校の特徴、カリキュラム、施設、受講料など) 広報(入学者を集めるためにどういう施策を行っているか) 受講生の属性(性別・年齢構成・出身地・農家出身か)はどうか
学校について	有機農業と慣行農業の授業の比率 ほ場の管理方法、一人当たりの面積 受講生、修了生に好評なカリキュラムはどのようなものか 学校が抱える課題と改善策
就農について	受講生の就農状況について 受講生に対してどのようなフォローをしているか(就農時のサポート)
就農後・その他	修了生の就農後の経営状況は安定しているのか 修了生に対してどのようなフォローをしているか(就農後のサポート) 市内定着率の推移 農の学校が学ぶべき取り組みはあるか



9. 地域関係者(分析を行い検証の基とするデータ一覧)

調査項目(分析を行い検証の基とするデータ一覧)	
学校について	農の学校に対する印象・イメージ 農の学校修了生が地域にうまく溶け込んでいるか 修了生による自治会への影響(活性化・多様化)はあったか 自治会・農会の地域行事等に修了生は積極的に参加しているか
就農・その他	修了生による周囲の農家への影響(販路・活性化)はあったか これから就農する受講生が地域のために学んでおくこと(知っておくべきこと)は何か 地域関係者の声に耳を傾けることにより農の学校のカリキュラムや 運営方針を見直すことはないか 農の学校の修了生と転入者に違いはあるか(行事・日役参加等) 地域で直面している問題・課題はあるか 農の学校にどんなことを期待しているか 移住者を受け入れて地域としてよくなったことはあるか

